

ニュースレター

発行者
キリスト教礼拝音楽学会
〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501
TEL/FAX 03-3721-0891
発行日 / 2011年4月1日

キリスト教礼拝音楽学会 第11回大会 案内

★テーマ：讃美歌・聖歌の諸問題

—キリスト教礼拝音楽学会の10年を振り返り、今後の展望を拓く—

★日時：2011年6月4日(土) 10:00-16:30

★会場：青山学院大学 9号館 904教室

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
連絡先携帯 090-4223-0805 (手代木)

★主催：キリスト教礼拝音楽学会

★会費：会 員 ¥2,000 / 非会員 ¥3,000

(ともに昼食代は含まれません)



・JR山手線、東急線、京王井の頭線「渋谷駅」
宮益坂方面の出口より徒歩約10分
・地下鉄「表参道駅」B1出口より徒歩約5分

●プログラム

9:30 -	受付	総合司会	伊東辰彦
10:00 - 10:05	会長開会挨拶		金澤正剛
10:05 - 10:25	キリスト教礼拝音楽学会の今後のビジョン		金澤正剛
10:25 - 10:45	10年を振り返って — 学会誌について —		伊東辰彦
10:45 - 10:50	休憩		
10:50 - 11:10	10年を振り返って — 書誌について —		手代木俊一
11:10 - 11:30	楽器から見た日本キリスト教史		赤井 励
11:30 - 11:40	休憩		
11:40 - 12:00	質疑応答		
12:00 - 12:30	総会		
12:30 - 14:00	自由行動		
14:00 - 15:30	シンポジウム		
	讃美歌集作成の現状と問題点		植木紀夫
	日本語聖歌とグレゴリオ聖歌との関係		新垣壬敏
	第二バチカン公会議とラテン語のミサ		E.ヘンゼラー 大津磨由美
15:30 - 15:45	休憩		
15:45 - 16:30	フリートーク(質疑応答・総括)		
16:30	会長閉会挨拶		金澤正剛

参加申込：5月16日締切・厳守

大会案内申込書(水色の用紙)に記入し、下記宛、郵送・FAXのいずれかで、お申し込みください。
多くの方のご参加をお待ちいたしております。

参加費は郵便振替口座(キリスト教礼拝音楽学会東北地区部会 02240-3-46335)に大会費と明記し、お振込みください。

申込先：〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501 手代木方 キリスト教礼拝音楽学会大会係
Tel/Fax: 03-3721-0891 (手代木) E-mail: gammo@ka2.so-net.ne.jp

大会会場紹介 - 青山学院大学 -

那須輝彦

青山学院は、1873年(明治6年)にキリスト教禁制の高札が撤廃されたのを機に来日した米国メソヂスト監督教会の宣教師が設立した3つの学校を源流にしています。

まず、1874年(明治7年)に同教会の婦人外国伝道会社から派遣されたD. スクーンメイカー (1851-1934) が弱冠23歳で麻布本村町に開いた「女子小学校」。同校は翌年「救世学校」と改称、さらに77年には築地明石町に移転して「海岸女学校」と称します。つぎに、1878年(明治11年)にJ. ソーパー (1845-1937) を中心に築地に開校された「耕教学舎」。これは3年後に「東京英学校」と改称します。そして最後に、1879年(明治12年)にR. マクレイ (1824-1907) を中心に横浜山手に設立された「美會神学校」。「美會」とは、「Methodist Episcopal (メソヂスト監督) 教会」の最初の「M(美)」と最後の「会」とったものです。この神学校は3年後に先の東京英学校に合同します。

この合同なった東京英学校が、1883年(明治16年)、現在の青山の地に移転するのです。校名も「東京英和学校」と改められました。5年後には、生徒数増加のため海岸女学校も上級生を青山に移し、「東京英和女学校」を開きました。

そして1894年(明治27年)、東京英和学校はついに「青山学院」を名乗ります。神学部と普通部(高等普通学部、英語師範科、予備学部)を置いていました。翌年には、前年から海岸女学校の低学年も合同していた東京英和女学校も「青山女学院」となります。普通学部(高等科・予備科・普通科)と手芸部、幼稚園を置いていました。両校は明治政府の宗教弾圧政策にも屈することなく、建学の精神を貫いて教育を続けました。

関東大震災(大正12年)の復興事業を機に男女学院の合同計画が具体化、1927年(昭和2年)に合同が認可され、青山学院は、神学部・高等学部・中学部・高等女学部からなる在校生3,000人の学園に発展します。しかし第二次大戦で、校舎の大半が軍関係の諸機関に転用される事態となり、45年(昭和20年)には空襲で建物の7割を消失しました。

戦後の青山学院は、専門学校(英文科・経済科・機械科・土木建築科)と女子専門学校(文科・外国語科・家政科・家事専修科)、そして中学部・高等女学部・初等部の体制で再出発します。そして1949年(昭和24年)ついに「青山学院大学」の設置が認可され、文学部・商学部・工学部の3学部で大学が開学しました。

1965年(昭和40年)に大学は、世田谷キャンパスを開

設して理工学部を設置、また82年(昭和57年)には、1・2年次生が学ぶキャンパスを厚木に開設し、80～90年代には、青山・厚木・世田谷の3キャンパス体制で教育・研究が行われました。2003年に厚木と世田谷のキャンパスを閉じて相模原キャンパスを開設し、以後、青山と相模原の2キャンパス体制を敷いています。この間、学部の増設が相次ぎ、現在では、文学・教育人間科学・経済・法・経営・国際政治経済・総合文化政策・理工・社会情報の9学部と専門職大学院を擁します。相模原キャンパスでは、理工と社会情報の全学年と文系学部の1・2年次生が学んでいますが、来年4月からは文系7学部が青山キャンパスに全面移転する予定で、同キャンパスでは校舎増設の大規模工事が進行中であり、本学会の大会時にもお騒がせすることになると思います。

教会音楽の教育・実践活動を紹介しますと、まず文学部史学科芸術史コースに西洋音楽史のゼミがあります。したがって大学院でも教会音楽史で論文を書くことができます。実技の分野では、宗教センター所属団体として、聖歌隊、ゴスペル・クワイア、ハンドベル・クワイアが活動しているほか、学生対象のオルガニスト養成講座も展開されています。プロフェッショナルな大学オルガニストが9名おり、式典での奏楽やチャペル・コンサート、オルガニスト養成講座などで活躍しています。オルガンは、青山キャンパス礼拝堂のものがスイス・マティス社製39ストップ、相模原キャンパス礼拝堂のものがデンマーク・マルクーセン社製40ストップ、いずれも3段手鍵盤と足鍵盤です。また本部礼拝堂にはドイツ・ヴァルカー社1932年製という年代物もあります。

大学は、クオリティの高い教会音楽を学生に提供することに力を入れています。メソヂスト系ということもあって、オクスフォードやケンブリッジの聖歌隊を招聘する機会に数年ごとに恵まれています。昨年9月には、メソヂストの祖ジョン・ウェスレーが教員を務めたオクスフォード大学リンカン・カレッジの聖歌隊が来学し、演奏会と礼拝を行いました。またキリスト教関連科目の特別講座として、毎年バッハ・コレギウム・ジャパンのレクチャー・コンサートも開催しており、鈴木雅明氏の解説つきでJ.S. バッハの教会カンタータが演奏されます。学生は無料ですが、一般の方々にも2,500円という格安額でチケットをお分けしています。今年は6月16日(木)6時半～の予定です。ご関心がおありの方は宗教センター (03-3409-6537) にお問い合わせください。

(当学会理事・青山学院大学)

「国立国会図書館所蔵讃美歌目録 (和書編)：執筆の経緯とその特徴」

柳澤健太郎

ほぼ3年前の2008年春のことでした。国際標準逐次刊行物番号(略称ISSN。誌名・媒体ごとに付与され、『礼拝音楽研究』では1346-7530)の管理を担当して間もない私は、業務外でも、新たな作業に着手しました。国立国会図書館で所蔵する讃美歌の調査です。

この作業は、約30年前に「国立国会図書館所蔵聖書目録」を作成された、岡村光章主題情報部長(当時。現在は調査及び立法考査局専門調査員)からの打診に応えるものでした。聖書に続けて讃美歌集の目録を作成することが、執筆当時の構想であったそうです。これを実現すべく、職員のサークルである聖書研究会の世話人を通じて私に声がかかり、追って編集部からも正式な執筆依頼を受けました。

讃美歌の所蔵調査を開始した当初、作業は難航が予想されました。1999年4月までに国内で刊行されたプロテスタント系の讃美歌集については、当学会の手代木副会長による目録が既にありました。しかし、正教やカトリック系のもの、さらに21世紀以降のものについては、国内刊行のものですら、網羅的に把握する手立てがありませんでした。

しかし「時は満ちた」ということでしょうか、調査開始後に、状況は大きく好転しました。当学会の会員であるヘンゼラー先生、宮崎先生の御著書が相次いで刊行され、戦中までのカトリックの聖歌集や、最近十年間の各教派の讃美歌集の刊行状況の概要が把握できました。さらに、創刊もない『Ministry』誌2009年夏号の荒瀬先生の記事には、直近の讃美歌集使用状況が紹介されていました。なお技術的な面では、NDL-OPACからの書誌データのダウンロードが可能となったことも、作業の効率化に役立ちました。

ところでこの目録については、三つの工夫を施しました。掲載を予定していた『参考書誌研究』71号からは、紙での刊行だけではなく、ウェブサイトでPDFファイルを公開し、広く閲覧可能とすることが当初から計画されていたためです。第一は、電子図書館「近代デジタルライブラリー」に本文画像を掲載済みのものを明示したことです。個々の讃美歌についてリンクを貼ることはできませんでしたが、請求記号のあとに印をつけたものは、NDL-OPACを請求記号から検索し、検索結果からリンクを辿る手順により、来館せず本文や楽譜を閲覧・複写できます。第二は、ISBD区切り記号の使用です。これにより、目録上のどの事項が讃美歌の書名や発行者等にあたるかが、日本語に不慣れな方にも容易に識別・同定できますので、海外の図書館や教会で日本語の讃美歌の書誌事項を確認するためにも活用できます。第三に、既存の書誌への掲載状況の明示があります。上記の手代木、ヘンゼラー、宮崎各先生の書誌、さらに最近の『キリスト教書総目録』への掲載の有無と掲載箇所とが確認でき

るようにしてあります。これを手がかりに既存の目録と対照すれば、国立国会図書館で未所蔵となっている讃美歌集は何か、また逆に、所蔵されているが既存の目録に漏れているものは何か同定できます。なお、同定の助けとなるよう収録曲数も記録し、不明点の多い127番目の「さんびか」は詳細に内容を記しました。

今回完成した目録は「和書編」ですので、掲載漏れを補うほかにも、課題が残っています。国内刊行のものを含め、外国語の讃美歌集は収録していません。これらを含む「洋書編」も必要です。また、所蔵している録音資料の中から、讃美歌を収めたものを紹介する「視聴覚資料編」も、もし作成できれば意義のあるものです。

この機会に、当学会の皆様特にご協力を仰ぎたいことがあります。民間出版物の納本は、国立国会図書館法25条に定められた義務です。しかし大手の取次業者を通さないキリスト教系の出版物は、納本漏れが発生し易くなっており、私自身も私物を数点寄贈しました。もし皆様が何らかの形で関わられた讃美歌集が今回の目録に収録されていない場合、NDL-OPACの検索により未所蔵であることを確認後に、発行元に納本または寄贈を働きかけて戴けますと有難いです。同様の営みを将来にわたって続けることができれば、今回の目録の補遺が、そのまま手代木・ヘンゼラー両先生の網羅的書誌の補遺としても機能することになります。

最後になりましたが、目録作成の機会を与えて戴いた岡村専門調査員、編集を担当された櫻井理恵古典籍課長(原稿執筆当時)、完成前に解説文の一部をご確認いただいた飯山智子、春田直紀、柳澤豊各氏に、心より感謝申し上げます。もちろん内容の誤りや掲載漏れの責任は、これらの方々ではなく、ひとえに作成者の私の責任によるものです。この目録が当学会の皆様にお役立て戴けるようでしたら望外の幸いです。

(当学会員・国立国会図書館)

●記事本文は以上です。本文の中では、手代木、ヘンゼラー、宮崎各先生のご著書に言及していますが、書名等の書誌事項を記していません。しかし、これらの書誌事項は全て、目録の解説等には記載されています。国立国会図書館に関して言及した事項に関わるURLは以下のとおりです。

- ・ 今回の讃美歌の目録
<http://rnavi.ndl.go.jp/bibliography/tmp/71-07.pdf>
 - ・ 30年前の聖書目録
<http://rnavi.ndl.go.jp/bibliography/tmp/34-05.pdf>
 - ・ NDL-OPACからの書誌データダウンロードの報告記事
http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/2009_1/index.html#03
 - ・ NDL-OPAC トップページ
<http://opac.ndl.go.jp/index.html>
 - ・ 近代デジタルライブラリーのトップページ
<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>
- URL確認日 2011/02/27

★役員会報告

①日 時：2010年11月28日(日) 14:00-
場 所：芸術劇場5F「マエストロ」
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、塩谷、手代木
議 題：・学会誌、ニュースレター、第11回大会に
ついて

②日 時：2011年1月16日(日) 14:00-
場 所：芸術劇場5F「マエストロ」
出席者：赤井、伊東、金澤、佐々木、塩谷、手代木
議 題：・大会の詳細な企画について
・・・会場、プログラムの決定
・ニュースレター、大会案内
・学会誌

③日 時：2011年3月20日(日) 14:00-
場 所：芸術劇場1F「プントインコント」
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、塩谷、手代木、那須
議 題：・大会当日の詳細事項
・ニュースレター
・学会誌

★学会誌発行予定

第10号 学会誌..... 4月半ば刊行予定

- 内容・巻頭言.....伊東辰彦
・キリスト教礼拝音楽学会10年を振り返る
学会誌『礼拝音楽研究』を中心に
.....手代木俊一、佐々木しのぶ、
伊東辰彦
・論 文.....加藤拓未、大津磨由美、
佐々木悠
・研究ノート... E. ヘンゼラー、手代木俊一
・書 評.....吉田幸弘『讚美歌に見られる
天皇制用語』
・第10回大会プログラム&報告
.....伊東辰彦

※別冊 『讚美歌書誌』手代木俊一著を同時発行予定

★会員出版物の案内・募集

※編集委員会より
会員の新刊行物を掲載し、皆様にご紹介したいと思います。
編集委員(手代木、佐々木宛)までお知らせください。

★会費納入のお願い

会の運営に対して、いつもご協力をいただき感謝申し上げ
ます。**2011年度の会費**を下記の口座にお振込くだ
さいますようお願いいたします。2007年度総会で決
定された会則改正により、2008年度より会費が変更に
なっております。なお、2010年度分まで完納した正会
員が、選挙・被選挙権の有資格者となります。

キリスト教礼拝音楽学会東北地区部会
郵便振替口座 02240-3-46335

入会金：3,000円(入会時のみ)
年会費：正 会 員 6,000円
準 会 員 3,000円

- 振込用紙には、年度、会員別、金額を必ず明記の上、
ご送金ください。
- 住所変更等も、お知らせください。
- 会費納入についてご不明なことがございましたら、
下記にご連絡をお願い申し上げます。

会計担当 佐々木しのぶ

〒980-0023 仙台市青葉区北目町6-6-1101

TEL/FAX 022-262-6565

Email:sshinobuorg@ybb.ne.jp